

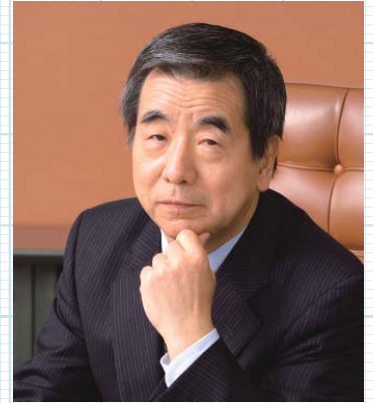
公益財団法人KDDI財団 機関誌

KDDI Foundation

vol.3
APRIL 2012



2012年を迎えて



理事長

伊藤 泰彦

(KDDI 株式会社 顧問)

昨年は東日本大震災という未曾有の困難を背負った日本の出発でした。人々は今なお大きな苦しみを背負い復活への不断の努力を続けています。2012年は、本格的な復活への年となることを祈ります。

さて、KDDI 財団でも 2012 年度は新たな出発の年です。財団では、昨年度、新しい公益法人制度の下、社会貢献を主たる目的とする公益財団法人としての移行申請を終え、新年度より公益財団に移行することとなりました。あらためて皆様のご支援をお願い致します。

海外留学の奨め

最近の新聞・TVでは、日本の国際競争力の低下を取り上げる記事が数多く見受けられます。そして、呼応するかのように、政府開発援助 (ODA) の激減、日本人留学生の減少の問題が取り上げられています。前者について言えば、直近 20 年間の ODA 予算を見ることで一目瞭然です。1978 年度に 2,332 億円であった ODA 予算は直線的に増加し、1997 年度の 1 兆 1,687 億円までピークを迎えます。そして、直後に始まった国の財政再建策と同期して、2012 年度までに 5,600 億円へと急減しているのです。この ODA 予算額のうち ICT 関連の予算はまことに少なく、昨年度も 0.6% にとどまっています。他の先進国の途上国援助予算が増加を続けている現実を見るにつけ、国際競争力の向上に活路を求める日本にとってまったく逆方向の状況が続いていることが気になります。

もうひとつの心配である日本からの海外留学生の減少については様々な統計があり、横ばいと報告もあります。しかし、学位を取らない、短期留学的なケースが 2 割以上であることを考えると、一般的な「減少」という捉え方は正しいのでしょうか。政府の統計資料を待つまでもなく、留学制度を持つ多くの会社に聞いても、この事実は確認できるのです。ODA、日本人留学生、この二つの減少事例は、今後の日本の進むべき姿に大きな違いを生む遠因となるのでしょうか。

素晴らしい出会い

30 年以上も昔の話ではありますが、私にも海外留学の経験があります。そこで出会った実にユニークな先生たち、留学

生との交感は今でも私の心の支えとなっています。例えば、こんな先生もいました。それは、中間期の期末試験の時でした。なぜか先生は、今回は問題を家に持ち帰り、参考書などを調べて解答を作成する、「テイクホーム・エグザム」という形式にすると云ったのです。さらに、黒板に問題を書きながら、こう付け加えました。「これから問題を三問出す。君たちはどれか一つに答えればよい。第 1 問目は、君たちのうちで本当に優秀な人でなければ解くことは出来ないだろう。第 2 問目は、かなり難しい、もしかすると私、トーマスでも解けないかもしれない。第 3 問目はもっと難しいぞ。神様にしか解けないかもしれない。友達と相談しては駄目だぞ。」

さあ、あなたならどの問題にチャレンジしたでしょう。私は、まず、どれが解けるか考えてみましたが、どの問題も一筋縄ではいかないのです。恐らく、トーマス先生がひねりにひねった問題なのでしょう。悩んだあげく私は、「どうせうまく行かないなら」と、神様しか解けない問題を選びました。締め切りまでの 1 週間、必死に考えてもまったく歯が立たないことが分かりました。ただし、絵を描くとおぼろげながら、正解ではないがその近くには行けるような気がしたのです。しかたなく、絵と言葉だけの解答を提出したものです。

試験の結果は驚きでした。先生は、学生のすべての答案に、こうすればもっとよい方法がある、あるいは大正解だとか、一人ひとり実に懇切丁寧なアドバイスが書き込まれてきたのです。また、何人かの面白い (良いという意味ではない) 解答を展示して、こんなやり方だってあるんだと勇気づけたのです。私自身は、スレスレの合格でしたが、懇切丁寧に考え方の基本を教える、こんな素晴らしい先生に出会ただけで満足でした。

KDDI 財団では、年間 12 名ほどの海外から日本への留学生に奨学金を贈呈しております。そして、本年度からは新しい試みである日本人留学生に対する援助を開始しました。この制度では、欧米のみならず、アジア諸国への留学を目指す方にも大きな期待を持っています。あなたの一生が変わるかもしれません。大勢の皆様の応募をお待ちしております。

心をつなぐ橋を

さて、KDDI 財団では留学生援助、海外研修生の受け入れに加えて、APT (Asia-Pacific Telecommunity) や総務省と

連携して、マーシャル諸島、ブータン、モルジブなどのアジア諸国への技術協力も進めています。これは、それぞれの国情を背景に出来あがっている通信システムを、より有効に発展させるためにはどうすればよいかを一緒に考えることを第一としています。

例えばマーシャル諸島共和国は、200万平方キロの広大な海域ではありますが、陸地の総面積はわずか181平方キロとほぼ霞ヶ浦と同じ大きさです。ここに1,225余りのサンゴ島がポツポツと点在しているのです。全島をあわせた住民の数は約6万1千人です。これだけの広大な領域に点々と散らばる人々を効率よくつなぐ通信システムは衛星以外には難しいというのが現実でしょう。しかし、衛星だけでは、装置も単純ではなく、好きな時に好きな場所で価格も安くという携帯時代の要求にはそぐわないのです。

そこで、APTとの協力の下、この点々と広がる各島をカバーする携帯電話網を少しずつ拡張し、安価にしてかつ島民の生活自由度を向上させるというプロジェクトが始まったのです。これは、マーシャル諸島共和国の長年の夢だったのです。今回のプロジェクトでは、本来は室内利用を基本とする低価格のフェムトセル局を使い、衛星と組み合わせることで簡便なネットワーク作りの可能性を実験します。

既にプロジェクトは、1年の調査期間を終え実験の段階に入りました。実際のところ、室内向けに作られた簡便なフェムトセルを過酷な環境の屋外に持ち出すことはかなりチャレンジングな仕事です。本当にこのシステムが全島に配備されるかは、今後の状況次第です。しかし、こうして双方の努力の下、様々な人達が知恵を出し合いながら目標に向かっていくプロセスこそが重要と考えております。

どこかのコラムで、相手から橋が架かるのを待つのではなく、こちらから橋を架けることが肝要とありました。大賛成です。KDDI財団では大きな鉄の橋を作ることは出来ませんが、留学生支援、国際協力など息の長い活動を続けることで、人の心をつなぐ小さな橋をたくさん作り続ける所存です。

CONTENTS

巻頭エッセイ

2012年を迎えて

伊藤 泰彦 理事長 (KDDI株式会社 顧問)

02 2011年度 助成・援助対象者

優秀研究賞 / 調査研究助成 / 社会的・文化的諸活動助成 / 外国人留学生助成 / 日本人海外留学生助成 / 国際会議開催助成 / 著書出版助成 / 海外学会参加助成

07 2012年度公募のお知らせ

助成・援助対象者からの報告

◎ 調査研究助成

08 複雑な生命現象の理解を目指して

小谷 潔 東京大学 新領域創成科学研究科 准教授

◎ 外国人留学生助成

10 日本での留学生生活：国境を越える子供の世界観

Eleanor Frances Margaret CLARK 北海道大学大学院 情報科学研究科

12 一人のタイ人留学生が憧れる日本のモノ

Panupan UDOMSUVANNAKUL 東京大学大学院 法政政治学研究所

◎ 社会的・文化的諸活動助成

14 ミャンマーの聴覚障害児教育(ろう教育)と私たちの活動

手島 悟 特定非営利活動法人NPO アジアマインド

KDDI財団の活動

16 2011年度国際協力活動

18 コンサルティング活動の紹介

小林 喜代隆 公益財団法人 KDDI財団 技術部 部長

雑感

20 インシャーラ ～神の思し召しのままに～

岡 信行
KDDI株式会社
グローバル事業本部 グローバル総括部
経営統合推進G
グループリーダ22 Makgadikgadi Pan ～見渡す限り何も無い世界～
Lekhubu Island ～どこかの惑星のような景色が広がる～平野 祐介
KDDI株式会社
渉外・広報本部 渉外部
課長補佐 (JICA 派遣)

2011年度 助成・援助対象者

2011年9月に受け付けられた「優秀研究賞」、「調査研究助成」、「社会的・文化的諸活動助成」、「外国人留学生助成」、「日本人海外留学生助成」、「国際会議開催助成」の助成・援助対象者が2012年1月の審査委員会の審査を経て、2012年3月14日の理事会において、次の通り決定されました。(所属・職位は受付時のものです。)

◎ 優秀研究賞

研究課題名	所属 / 代表研究者	表彰額(千円)
モバイルインターネットサービスの利用に関する動機づけ、ユビキタス環境、情報ネットワーク構築に関する研究：国際比較視座からの考察	スペイン国立マドリード・アウトノマ大学 マーケティング 准教授 岡崎 伸太郎	500
高信頼アドホックネットワークに関する研究	東北大学 大学院情報科学研究科 応用情報科学専攻 教授 加藤 寧	500
合 計	2 件	1,000

◎ 調査研究助成

活動名	調査研究代表者	期 間	助成額(千円)
カーボンナノチューブ量子通信素子の基礎研究	東京大学大学院工学系研究科 准教授 加藤 雄一郎	2012年4月1日～ 2015年3月31日 3年間	2,850
国際間電子商取引におけるリスク受容の研究	国立情報学研究所 情報社会相関研究系 准教授 岡田 仁志	2012年4月1日～ 2015年3月31日 3年間	2,850
個人識別性・同意の判断とネット広告	筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科 准教授 石井 夏生利	2012年4月1日～ 2015年3月31日 3年間	2,850
情報通信技術の標準に関する知的財産権政策	北海道大学大学院法学研究科 特任准教授 Hazucha, Branislav ハズハ・ブランイスラヴ	2012年4月1日～ 2015年3月31日 3年間	2,850
クラウド技術による無線情報配信方式の研究	長岡技術科学大学 工学部・電気系 助教 山本 寛	2012年4月1日～ 2015年3月31日 3年間	2,812
多数のスマートフォンによる屋内行動推定	大阪大学大学院 情報科学研究科情報ネットワーク学専攻 准教授 山口 弘純	2012年4月1日～ 2015年3月31日 3年間	2,746
大規模災害時の通信ネットワークと発信規制	東京大学大学院 情報理工学系研究科・電子情報学専攻 教授 浅見 徹	2012年4月1日～ 2014年3月31日 2年間	2,850
ダイナミックレンジにスケーラビリティをもつ高ダイナミックレンジ画像の符号化	北九州市立大学 国際環境工学部 情報メディア工学科 教授 奥田 正浩	2012年4月1日～ 2015年3月31日 3年間	2,850
情報3D化時代に備えた新奇発光材料の探索	近畿大学 理工学部 講師 今井 喜胤	2012年4月1日～ 2015年3月31日 3年間	2,850
SNS利用の比較文化的研究	筑波大学大学院 システム情報工学研究科 社会システムマネジメント専攻 准教授 石井 健一	2012年4月1日～ 2013年6月30日 1年3ヵ月間	1,364
合 計		10 件	26,872

◎ 社会的・文化的諸活動助成

活動名	主催する団体名	実施時期 / 場所	助成額(千円)
第15回全日本中学校 Webコンテスト ThinkQuest JAPAN	特定非営利活動法人学校インター ネット教育推進協会	2012年4月1日～2013年3月31日 日本国内	831
「ぱんぶぎんネット」つなげよう!ひろげよう! 子ども達の笑顔のリレープロジェクト	ぱん・ぱん・ぱんぶぎん	2012年4月1日～2013年3月31日 岩手県大船渡市、陸前高田市、釜石市、 大槌町、宮古市	850
視覚障害者の生活情報支援を目的とする、 商品パッケージ・取扱説明書テキスト提供 事業	NPO法人 ウィスタリアブック	2012年4月1日～2012年11月30日 岐阜市	850
臨床心理士による海外在住者へのメール 相談と訪問による心理的支援	With Kids ー海外に住む子どもの心の健康を サポートする臨床心理士の会ー	2012年4月1日～2013年3月31日 インドネシア(ジャカルタ)	792
ケニア・ダダブ難民キャンプにおける 青少年のコミュニケーション活動支援	アデオジャパン	2012年4月1日～2012年12月1日 ケニア(ダダブ難民キャンプ)	691
グローバル・エンタプライズ・チャレンジ (Global Enterprise Challenge) 2012 世界大会	NPO法人アントレプレナーシップ 開発センター	2012年4月1日～2012年6月30日 (2012.6.15～18 世界大会実施期間) 京都、ただし、現地参加できない欧米 などの代表チームは各国からネット 参加。	849
障害者等の情報格差の人たちにこそ、 使ってほしいスマートフォン・タブレット 端末	NPO法人 支援機器普及促進協会	2012年4月1日～2013年3月31日 全都道府県	850
日中台 協働学習で 虹よかかれ 尖閣の海に!	河内長野市立美加の台小学校	2012年4月1日～2013年3月31日 大阪・山東省済南市 台湾高雄市・韓国ソウル、ベトナム ホーチミン	680
日本・カンボジア草の根文化交流 ～ITと教育の現場を考える～	NPO法人 歴史文化交流フォーラム	2012年4月7日～2012年11月30日 カンボジア(シュムリアップ、コンボ ンクディ)	850
合 計		9 件	7,244

◎外国人留学生助成

研究課題名	氏名／所属	国籍	助成月数	助成額(千円)
Control of membrane fouling risk in membrane bioreactor systems	トゥラン トウエツ ティ (Tran Tuyet Thitran Tuyet Thi) 立命館大学大学院 理工学研究科	ベトナム	6ヶ月	720
Route Optimization for Electric Vehicles	セディクウメイール ファルーク (Siddiqi Umair Farooq) 群馬大学大学院 工学研究科	パキスタン	12ヶ月	1,440
地域に限られた SNS における職員が利用しているバーチャルコミュニティと組織における社会資本にその影響	ツオイ タチヤナ グリゴリエブナ (Tsoy Tatyana Grigorievna) 筑波大学大学院 人文社会科学部研究科	ウズベキスタン	6ヶ月	720
Applying Finite State Automaton to Collation Weight Design	ティン ティー ライー (Tin Htay Hlaing) 長岡技術科学大学大学院 工学研究科	ミャンマー	12ヶ月	1,440
Analysis of Mobile Phone Services to Faciliate Daily Life	ギアス カジ マハディア (Ghyas Qazi Mahdia) 筑波大学大学院 システム情報工学研究科	バングラデシュ	12ヶ月	1,440
IPTV 推薦システム	ディン フン コク (Dinh Hung Quoc) 早稲田大学大学院 国際情報通信研究科	ベトナム	6ヶ月	720
Transcoding between H.264/SVC and H.264 / AVC for Video Conferencing	孫 磊 (Sun Lei) 早稲田大学 大学院 情報生産システム研究科	中国	12ヶ月	1,440
Cooperative Control For Multiple Mobile Robot Using Particle Swarm Optimization	ドウィ アルマン プラセティヤ (Dwi Arman Prasetyadwi Arman) 徳島大学大学院 先端技術科学教育部	インドネシア	12ヶ月	1,440
Face Recognition	アルウィン メルキ サンプル (Alwin Melkie Sambul) 熊本大学大学院 自然科学研究科	インドネシア	12ヶ月	1,440
Study in local and Japanese NGO Programs and Sustainable Development in Dhaka, Bangladesh	ジルハズ アクター (Jilhaz Akter) 九州大学大学院 人間環境学府	バングラデシュ	12ヶ月	1,440
Prediction of Interaction between circuit-design and device-performance on technology scaling	金 信寧 (Kim Sinnyuong) 京都大学大学院 情報学研究科	韓国	6ヶ月	720
複数視点ビデオの効率的伝送に関する研究	潘 子圓 (ハン シェン) 静岡大学大学院 自然科学系教育部	中国	6ヶ月	720
合 計			12 件	13,680



◎日本人海外留学生助成

研究課題名	氏名／所属	留学国(予定)	助成額(千円)
人間の注視行動の解析、モデル化	石川 恵理奈 京都大学大学院 情報学研究科 知能情報学専攻	米国	2,000
グラフを対象としたデータマイニング手法の開発とプライバシー保護に関する研究	大滝 啓介 京都大学大学院 情報学研究科 知能情報学専攻	ドイツ	2,000
合 計		2 件	4,000

◎ 国際会議開催助成

会議名	主催団体名	開催時期	助成額(千円)
第20回 ACMマルチメディア国際会議 ACM Multimedia 2012	Association for Computing Machinery	2012年 10月29日～11月2日	1,000
第75回 IEEE 移動技術会議 The 75th IEEE Vehicular Technology Conference (VTC2012-Spring)	IEEE Vehicular Technology Society	2012年 5月6日～5月9日	1,000
第9回 IEEE アジア・パシフィックワイヤレス 通信シンポジウム 9th IEEE Asia Pacific Wireless Communications Symposium	IEEE APWCS 2012 実行委員会	2012年 8月23日～8月24日	1,000
国際電波科学連合B分科会 2013 電磁界理論国際会議 2013 URSI Commission B International Symposium on Electromagnetic Theory (EMTS2013)	国際電波科学連合 B 分科会 (URSI Commission B) 電子情報通信学会	2013年 5月20日～5月23日	1,000
2012 知覚学習国際ワークショップ 2012 International Workshop on Perceptual Learning	2012 知覚国際ワークショップ実行委員会	2012年 10月16日～10月21日	1,000
第17回分子線エピタキシー国際会議 17th International Conference on Molecular Beam Epitaxy	社団法人 応用物理学会	2012年 9月23日～9月28日	1,000
第18回 ディペンダブルコンピューティングに関する 環太平洋国際会議 The 18th IEEE Pacific Rim International Symposium on Dependable Computing (PRDC2012)	IEEE Computer Society Technical Committee on Dependable Computing and Fault Tolerance	2012年 11月18日～11月19日	1,000
2012年アンテナ伝播国際シンポジウム 2012 International Symposium on Antennas and Propagation (ISAP2012)	電子情報通信学会通信ソサイエティ	2012年 10月29日～11月2日	1,000
合 計		8 件	8,000

◎著書出版助成

出版物名	執筆者	出版時期	助成額(千円)
韓国の映像コンテンツ産業の発展と政府の役割	慶應義塾大学 メディア・コミュニケーション研究所 研究員 金 美林	2013年2月	2,000
通信と交通のユニバーサルアクセス	東京海洋大学 海洋工学部 教授 寺田 一薫	2013年3月	2,000
ネットワーク中立性の経済学	九州大学 大学院経済学研究院 教授 実積 寿也	2013年7月	2,000
合 計		3件	6,000

◎海外学会参加助成

参加学会名	参加者	開催時期	助成額(千円)
国際シンポジウム “Law and Multi-agential Governance:An Impact of Law on Market, Competition and/or Innovation”	北海道大学 大学院法学研究科 教授 田村 善之	2011年8月18日～ 2011年8月20日	400
第26回ヨーロッパ経済学会・ 第65回国際計量経済学合同会議	青山学院大学 経済学部 教授 馬場 弓子	2011年8月25日～ 2011年8月29日	200
合 計		2件	600

2012年度公募のお知らせ

2013年4月以降に実施されるものが対象となります。



調査研究助成

(1) 対象

情報通信の普及・発展に寄与する調査研究（法律、政治、経済、社会、文化、技術の各分野あるいは各分野にまたがるもの）。特に、新規分野での独創的な研究や若手研究者の研究、国際共同研究および学際研究の申し込みを歓迎します。

ただし、通信事業者等の本来業務に該当する調査研究は対象外。

調査研究期間は、1年～3年まで（ただし2016年3月までに終了のこと）。

助成・援助の申込者は、個人の場合は調査研究者本人、グループの場合は代表者。

(2) 助成・援助金額等

1件あたり最高300万円まで。10件程度。



国際会議開催助成

(1) 対象

情報通信の普及・発展に寄与する国際会議で、先端技術にかかる課題から法制度や政策・技術の利活用など、幅広い分野での会議を歓迎します。

ただし、通信事業者等の本来業務に該当する国際会議は対象外。

2013年4月から2014年9月の間に開催される会議であること。

(2) 助成・援助金額等

1件あたり最高100万円まで。10件程度。



社会的・文化的 諸活動助成

(1) 対象

情報通信を利用し社会や教育等に貢献する各種の「草の根」活動。地域社会の国際化につながるような各種の活動、通信を通じて社会に貢献する各種の文化事業。通信の普及・発展、あるいは国際間相互理解の促進に寄与する活動・事業など（たとえば、イベント、講演会、ボランティア活動）。

ただし、通信事業者や地方自治体等の本来業務に該当するものは対象外。

2013年4月から2014年9月の間に実施されるもの。

(2) 助成・援助金額等

1件あたり最高100万円まで。10件程度。

申込受付：7月中旬（予定）

*詳細はホームページでご案内いたします。

ホームページより所定の申込書をダウンロードし必要事項をご記入の上ご提出ください。申込書は毎年更新いたしますのでご注意ください。申込書が入手できない場合には、財団にご請求ください。

助成・援助の採否

審査委員会の審査を経て、2013年3月に開催予定の理事会で採否を決定します。この際、助成・援助希望金額は減額されることもあります。決定通知の金額で実施できないと判断されるときは、速やかに辞退を申し出てください。

お問い合わせ・申込書請求・申込書送付先

公益財団法人 KDDI財団

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-28-8

文京グリーンコートセンターオフィス 7F

E-mail: grant@kddi-foundation.or.jp

http://www.kddi-foundation.or.jp

留学生への援助

KDDI財団では、日本国内で学ぶ外国人留学生、海外での研究を志す日本人の留学生をサポートしています。いずれも当財団が指定する大学もしくは大学院に在籍し、学校より推薦された35歳以下の学生が対象です。

外国人留学生につきましては、情報通信関連の研究を進めていることを条件とし、月々10万円、最長1年間の援助をいたします。

日本人の海外留学支援につきましては、開発途上国への留学希望者を優先し、年最大200万円を援助いたします。



助成・援助対象者からの報告
調査研究助成

複雑な生命現象の理解を 目指して



東京大学 新領域創成科学研究科 准教授

小谷 潔
Kiyoshi Kotani

我々の研究室（人間環境支援学分野）は東京大学新領域創成科学研究科・人間環境学専攻に所属しております。研究対象はヒトを含めた生き物の持つ複雑さです。図1に研究対象の図を示しておりますが、この図の通り生き物は分子-細胞-臓器-個体と階層的な構造をなしております。生体システムのような階層について計測を行うと、それぞれのスケールにおいて複雑な挙動を示すことがわかります。そのような各スケールでの複雑性を理解するとともに、得られたデータを物理学・数学を用いて統合し、生命現象の本質に迫ろうと考えております（図2）。生命現象にはまだまだ分からない事がたくさんあるのですが、他の自然界の現象を扱った物理学の理論・考え方が適用できる事が多いと考えており、また生命現象の理解のための理論を新しく展開していくことも必要であると考えて取り組んでおります。このような研究は工学、生理学、物理学、数学といった諸分野にまたがる学際領域であるため困難も多いのですが、新しい領域への挑戦として取り組んでお

ります。

さらに我々の研究室の特徴として、上記のような基礎研究の結果、得られた知見を我々の生活の様々な支援に役立てようと試みていることがあります。具体的な支援と致しましては、医療診断応用、リハビリテーション、作業支援、リラクゼーション支援（エンターテインメント支援）などを想定しております。実験室環境で得られた基礎的な知見を実際の生活現場での支援に結びつける際には、デバイス、信号処理、通信といった工学技術を上手く用いることが重要であると考えております。それによって、生活に支障のないセンシングによってリアルタイムに生体情報を読み解き、結果を本人に伝えるようなシステムが構築できると考えております。

このように幅広い研究を展開しておりますが、それによって生命の動作原理を深く知り、さらにその結果を活かしてより多くのヒトの生活が豊かになるような提案を一つでも多くしていきたいと考えております。

マイクロからマクロへ、マイクロから実生活支援へ

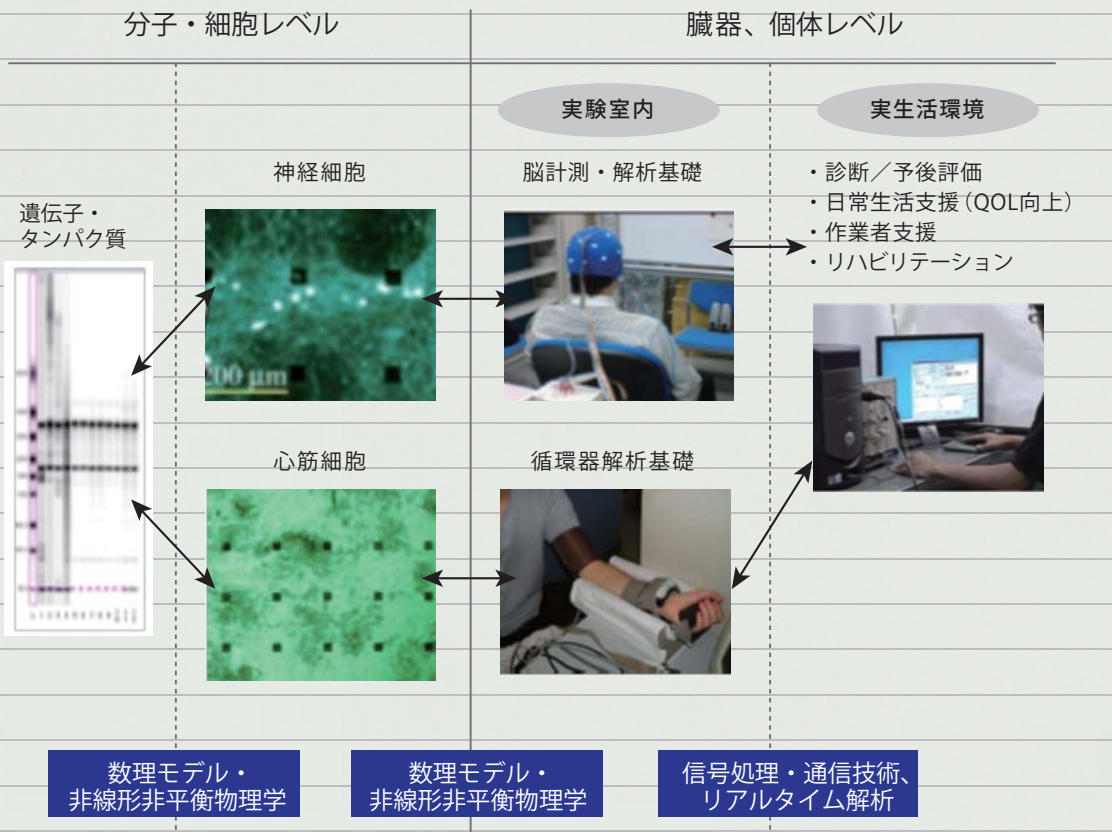


図1：研究室で行っている研究の概要

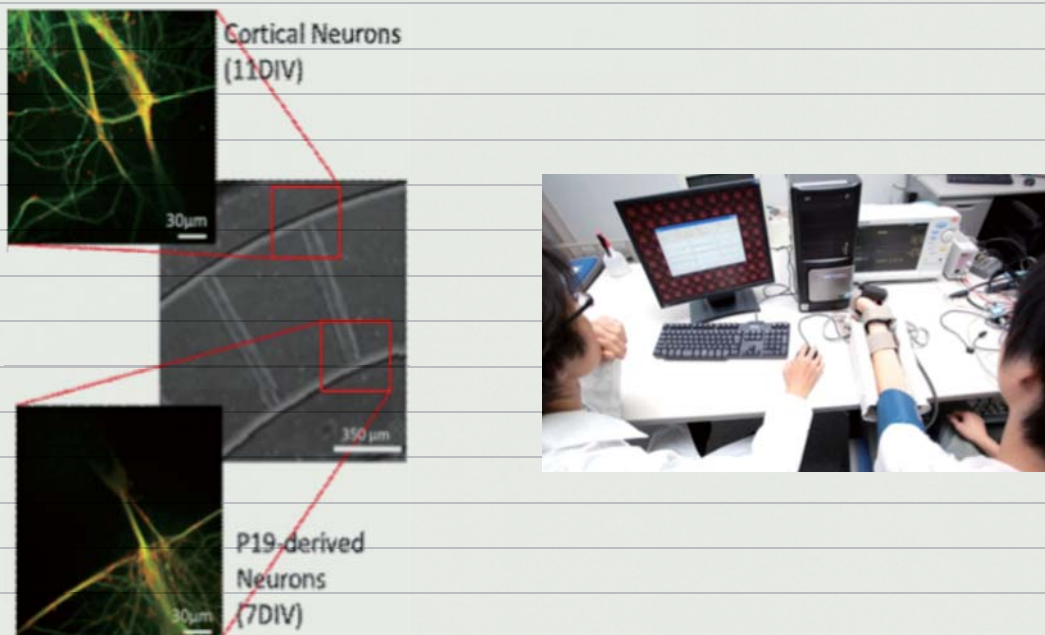


図2 (a) マイクロ構造物内での細胞培養

(b) マクロな循環器制御特性評価実験



助成・援助対象者からの報告

外国人留学生助成 ①

日本での留学生活： 国境を越える子供の世界観

北海道大学大学院 情報科学研究科

Eleanor Frances Margaret CLARK (英国)

北海道大学大学院博士課程3年生のイギリス人留学生です。

日本留学生活の7年目になった私ですが、よく「日本はどうですか?」と聞かれます。もちろん、「日本」という言葉の中には美しい自然、美味しい食べ物やきれいな街などの色々なものが入ると思いますが、私にとって「日本」の意味はまず日本人のことです。

人がいなければ国というものはもともと存在しないからです。

それで私たち留学生が日本人と一緒に生活しながら日本のイメージができてくるのは当然なことだと思います。私の人生の中で色々な人たちを見ながら「日本」というものの姿が見えてきました。

このエッセイではまず私の留学生活において、影響を与えてくれた幼稚園時代の最初の日本人の友人について書きたいと思います。

さて、29歳の私は現在日本に住んでいます。3歳くらいのときから小学生のときまで、人生で初めてできた親友は日本人の女の子でした。

その2つの事実はどの程度関係しているか私も良く言えないのですが、とても小さいときから日本という遠い国の良いイメージがあったのは間違いないです。

お父さんの仕事の都合で私の故郷オックスフォードに転勤した彼女には言葉も食べ物も、周りの人たちの顔もとても違って、静かな子供でしたが、私と一緒に遊ぶようになって、小学校に入学する時期にはすでに離れられない二人でした。

小さい私にとって、彼女の家族の家に遊びに行くことがまるで別な世界に入るような楽しい探検でした。昼ご飯に出てくる料理は知らない食べ物だったり、絵本の文字が読めない不思議な文字だった上に、なんとイギリスと違って、右から開く本でした。二人



私の6歳の誕生日パーティーに幼なじみの日本人Kさんも参加
(真ん中の子が私です)

で遊ぶときは彼女がよく日本の折り紙を教えてくれました。

そのときに非常に楽しい思い出がたくさんできて、「日本って、なんとおもしろい国だろう」と思い始めました。小学校2年生のときにまたお父さんの仕事の関係で、彼女が帰国することになりました。

親友がいなくなるのがとても寂しく、最初はお互いに手紙を出したりしていましたが、まだ小さかったので、時間が経つうちに結局連絡しなくなりました。しかし、私の中で日本の暖かいイメージがしっかりできていました。彼女が帰国したときにくれた写真のフレームの後ろに英語で「Please remember me」(「私のことを覚えてください」)が書かれています。その写真をずっと大事にしていました。

後に私は、外国語専門の高校に入って、イタリア語とフランス語を勉強して、言語の勉強があまりにも楽しくて、大学に入ったら日本語の授業をとることにしました。

15年ぶりにその幼稚園の友達のことを思い起こすようになり、「元気にしているかな、今何をしているだろう」とよく考えるようになりました。

日本語で読み書きが少しできるようになったら、私の部屋の筆筒を探して、彼女からの最後の手紙を見つけました。その封筒に住所が書いてあったのですが、消印が1987年でした。15年間に一度も引越していないといいなと思いながら、恥ずかしいぐらい下手な日本語で手紙を書きました。

正直、ちゃんと届くとは思っていませんでしたが、一週間後返事が来ました。そのときから、メールでよく連絡をとることになりました。

その後、私が北海道に留学することになって、1年目のときに関西で再会することができました。私が色々不安だったその1年目に彼女のメールがとても支えになりました。

現在彼女は結婚していて、東京に住んでいて、数年前に息子が生まれました。私が博士課程1年生のときに学会のために東京に行く機会があり、彼女と会えて、その息子と初めて会う事もやっとできました。2歳の彼に「ママとは幼稚園のときからの友達だよ」と説明することができて、とても嬉しかったです。

本年度私は大変恵まれて、KDDI財団から支援をいただいておりますが、その前の数年間の留学生活は完全に私費でした。年金生活している親から仕送りをお願いすることができないので、なんとか自分で学費が払えるために色々なアルバイトをしていましたが、その一つは、月1回ある幼稚園に英語のゲームや歌を教えに行くことです。現在も行っています。

そこに通っているのが今年ですすでに5年目ですが、教え始めたころの弱い自分にとってはとても辛かったです。大勢の子供たちがあまりにも騒いでいて、聞いてもらえなくて、たまに「英語って嫌だあ！日本語で言って～！」と言われてたりして、私がなかなか慣れなかったのでアルバイトの後でよく泣いてしまい、何回も辞めたいと思いました。

しかし、私が幼稚園のときにその友達のおかげで日本の良いイメージを持つことができたので、同じように今の幼稚園の子供たちにいい思い出ができるように頑張ろうと決心しました。

そこに約80人いますが、そのほとんどの子供には、人生で初めて接した外国人は私です。そう考えると、楽しい思い出を作る責任があることがわかりました。私が小さいときにとても優しい日本人に出会って、大人になったら日本に留学してみたいと思ったのと



大人になった私とKさん、Kさんの息子。2009年

同じように、いつか彼らは「幼稚園のときに面白いイギリス人の先生がいたんだね、イギリスって面白いところだろうな」と思ってくれたら、最高に嬉しいです。

彼らの将来に小学校5年生のときに英語の授業が始まったら、英語が楽しいと思ってくれるかもしれないし、いつか私みたいに遠い国に留学したくなる可能性もあることでしょう。

もちろん、その逆もあります。子供たちに厳しい言葉で嫌な思いをさせてしまったら、一生外国人に対する不愉快な思い出が残ってしまうかもしれません。それで、私の友人が私の人生に与えてくれた影響の少しでも今教えている子供たちに返せたら、本当に素晴らしいことだと思います。

小さい子供はまだ「私の国」と「外国」という壁がなく、ただ人間と人間を見ています。その素直な心で国境を越える友情が生まれ、私の体験を考えると、本当の国際化はよく子供の心から始まるものではないかと思います。



アルバイト先の生徒さんに絵本を読んでいる私



一人のタイ人留学生が憧れる日本のモノ

東京大学大学院 法学政治学研究科

Panupan UDOMSUVANNAKUL (タイ)

>>> 序論

私はタイの高校を卒業してから、文部科学省の奨学金で日本に留学した。一年間の日本語コースを経てから、東京大学の法学部に入学した。法学部を無事に4年間で卒業したが、諸事情により、文部科学省の奨学金の延長ができなかったため、東京大学大学院法学政治学研究科での修士一年目は親の仕送りとアルバイトで生活を送っていて、大変な一年間だった。幸いなことに、2011年4月から2012年3月まではKDDI財団の奨学金があるため、少し生活の余裕があるようになった。私の生活と研究を支えてくれたKDDI財団に心から感謝している。

当然のことであるが、日本での生活を通じて、たくさん辛い思いをした。今から振り返ってみると、辛い

思いをしたからこそ、大切な経験と教訓が得られたと思っている。生活の面では、日本での独り暮らしを通じて、自己管理ができるようになった。東大の法学部での大変な勉強を通じて、公共精神と野心を抱くようになった。日本で身についたことと経験を今後の人生の宝物にしていきたいと思う。

7年間の生活でたくさん日本のことを見たが、ここでは、特にタイ王国にもあってほしいものを3点紹介する。

>>> 優秀で勤勉な国家公務員

タイと日本のサラリーマンの勤務時間を比較する場合、言うまでもなく、日本のサラリーマンの勤務時間の方が長い。しかし、国家公務員の勤務時間を比較すれば、その差がより大きい。私は、日本人の友達に「タイの公務員はみんな4時に帰宅するよ」と言ったら、「朝四時？」という返事が返ってきた。タイの公務員は午後四時半に帰宅するが、日本の国家公務員は朝1～2時まで働いている人が多い。

また、国家公務員になりたい優秀な日本人がたくさんいる。一方、優秀なタイ人は公務員の仕事を避けている。この違いの原因は、公務員の給料、社会的地位などが考えられる

最近、日本のマスメディアは財政赤字を公務員に責めることが多いが、私の個人の意見ではタイより優秀で、勤勉な公務員が日本の成長を支えてきたと私は思っている。私は日本の優秀な公務員の勤勉さに感動している。



学部の卒業式



裁判官研修旅行で通訳のアルバイト

>>> 適正な法律の執行

日本の法制度とその執行もタイの司法改革にとって参考になる。私は、学部三年生から、通訳人のアルバイトの依頼を受けるようになった。タイ王国の裁判官からの依頼が多くてタイの裁判官のために日本の法の講義と講義後の質疑応答をかねて通訳したことで、大変勉強になった。特に、質疑応答の通訳を通じて、日本とタイの司法制度の比較の理解を深めることができた。制定法又は法律の文言だけを見ると、日本とタイはあまり違いがないが、法執行の側面では、大きく異なっている。

適正な法律の執行は多数のいいことに繋がっていると思う。適正な法律の執行は国民の法令順守意識にも貢献しているのではないと思う。国民全体の法令順守意識から生まれるのは、安全で規則正しい社会であると思う。タイと日本は、内容が似ている刑法と刑事訴訟法を持っているものの、日本の治安はタイよりはるかに高いと言われている。これも日本の法律の執行の結果であるかもしれない。



>>> 網羅的な国民健康保険

また、タイに導入してほしい日本制度は、国民健康保険の制度である。私の意見では、日本の国民健康保険制度は人々の医療費の負担を著しく軽くする制度である。この制度は、みんなに平等な医療を受ける機会の確保に貢献していると思う。特に、タイにおいては、深刻な病院不足等の問題を度外視しても、国や地方公共団体の医療保険が不整備であるため、低所得者の医療を受ける機会が損なわれているのは、悲しい現実である。

タイの低所得者は、国民健康保険制度などがいないため、高額な私立の病院には通えなくて、国立の病院にしか行けない状況にある。また、病院と医者不足の問題もあり、結果的に、国立病院で診察を受けるために、コネがない場合、朝五時から並ばないといけない。日本では、私立の病院や保険所でも、国民健康保険が使えるため、タイのような問題が生じないことに寄与しているかもしれない。

>>> 結び

以上は私の見解による日本の素晴らしいところである。タイだけでなく、東南アジアの諸国も見習うべきであると思う。また、私の今後の人生の中で、タイが前述した三つのものを整えるように、少しでも貢献できるように努力する。



ミャンマーの聴覚障害児教育(ろう教育) と私たちの活動

特定非営利活動法人 NPO アジアマインド

手島 悟



ミャンマーにはヤンゴンとマンダレーに2校のろう学校があり、生徒数はそれぞれおよそ300名、200名(年度により児童数は変動する)である。

キリスト教系 NGO が運営母体のマリーチャップマンろう学校(ヤンゴン)には、全国から生徒が集まり、寄宿舎も備えている。児童数からいえば施設全体は手狭であるが教室を半分に区切って使用するなど工夫しながら授業に対応している。マンダレーろう学校はミャンマーで唯一の公立ろう学校である。

両校とも社会福祉省の管轄だが、運営は民間からの寄付にも頼り、ろう教育の基盤となる視聴覚教材や機器を充実させることは予算的にも難しい。また基本的な機器の取り扱いの系統的な知識を持たなかったため、海外から寄付される補聴器を子供たちに利用することができなかった。(アメリカやシンガポールなどから中古の補聴器が寄贈されることがある)

アジアマインドは2005年から2年間、JICAの委託事業として、2校への技術移転活動を実施した。具体的な内容は以下のようにまとめられる。

①在籍する子供たちの聴力を把握するための「聴力検査方法」、聴力検査から得られたデータを基にして、子どもたちに補聴器を利用させるための「補聴器フィッティング技術」、補聴器のしくみや機能、ろう学校で使用する基本的な機器類の活用方法の技術移転(ろう学校で必要とする機材=ハードに関する技術移転)

②なぜ補聴器を使うのか、「発声・発語指導」、「カリキュラムづくり」と補聴器の位置づけなど、日本のろう教育の実践を紹介しながら、ろう教育のソフト面に関する技術移転をととしたミャンマーろう学校の教育環境整備

現地活動ではセミナーやワークショップ形式で、現

場で実際に使える技術を実践的に身につけることを目標にした。結果的に現地の先生にとっては、これまで経験的に理解していたことの理論的裏付けになった。また、導入した聴覚活用機器や補聴器を実際に教室で使えるようになったことは現場の先生の大きな自信になった。

2007年以降は現地(社会福祉省とろう学校関係者)からの要請で、補聴器の導入とフィッティング技術のスキルアップ、重複障害児(二つ以上の障害を併せ持つ児童)の教育方針の立て方など、具体的な問題をひとつひとつ解決しながら、先生が実践経験を積めるような支援を継続した。2009年からはデジタル補聴器の技術移転がテーマになっているが、アナログ補聴器の基礎から積み上げた技術があったので、現在はどんな補聴器も学校で正確にフィッティングできるようになっている。(市販されている補聴器でも、寄贈されたものでも使えるようになった)

現在は両校とも専門的教育機関として、ろう学校が備えるべき基本的機材、補聴器に関する専門的知識と基本的な技術を持っているといえる。

ミャンマーではろう学校での教員の移動がほとんどないため、教員の指導力や経験はそのまま蓄積され、若手教員が育つ環境がある。それは学校の実力となって現れやすい。(タイと比較して技術の定着や教員間の情報伝達がスムーズに行われている)とくに、マリーチャップマンろう学校では、これまでの研修の蓄積が充分になされていると判断している。カウンターパートの個人的資質によるところもあるが、同校の新規採用教員の研修でも工夫した取り組みを見せるなど、学校全体で研修成果を活用しようとする取り組みがある。

マンダレーろう学校は公立学校であり、周知の通り、



海外 NGO の活動はミャンマー政府の強い制約を受ける。行政には多くの政治的問題があるが、これまでの当会の活動には一定の評価をしているようで比較的協力的である。最近数ヶ月の間にミャンマーの政治状況は周囲が期待する方向に大きく変化した。この変化が、ろう学校や障害児教育を取り巻く環境の本当の意味での改善につながることを願ってやまない。少々堅い話になってしまったので、現地での実際の様子をお知らせするエピソードをふたつ紹介したい。

今年、夏のセミナーで被験者となった A 君は 6 歳で、今年マリーチャップマンに入学した。視力障害と聴覚障害のダブルハンディである。また、発達障害も併せ持つ。「耳が聞こえない」のでろう学校を紹介された。チャップマンの先生は「聴力検査をしたが反応がなく、聞こえているかよくわからない」状況で、指導方針を立てられなかった。A 君のお父さんはシンガポールで働き、A 君の補聴器を買ったが、A 君がすぐにとってしまうことも分かった。彼の補聴器は壊れていて、耳障りな音を出すためにすぐに外してしまうのだった。実際に A 君の聴力検査をしてみると、補聴器を使用することができることが分かった。

私たちに A 君の補聴器フィッティングを急がせた理由は、現在右目に残っている視力が将来完全になくなることが分かっているからである。視力を失えば、彼の情報源は耳だけになる。補聴器を効果的に利用して、

聴力を活用することは A 君には絶対に必要になる。ご両親も頼れるのはろう学校と先生だけで、ろう学校はそれにこたえなければならない。夏のセミナーでは、担当教員、A 君、ご両親とともに A 君の指導方針を立てた。シリアスなケースだが、ろう学校の教員が直面する課題のひとつである。

今年は初めてろう学校に在籍する児童の保護者を対象に「聴覚障害児とろう学校」をテーマにワークショップを開催した。150 名の保護者が参加し、私たちも保護者の関心の高さに驚かされた。個別に出される問題に、聴覚障害の多様性をあらためて認識させられた。ワークショップ終了後に一人のお母さんがあいさつに来られ、(後から K ちゃんのお母さんと紹介された) 何度もお礼を言われた。先生の通訳によると「私の娘は学校で補聴器をつけてもらった。そして、娘が『お母さん』と発語した。そう呼ばれたのは初めてでした。娘は補聴器を毎日使っています。日本の先生ありがとう。」ということだった。その日のビールがおいしかったのは言うまでもない。私たちの活動現場にはこのようなやり取りがあり、そんなやり取りに支えられていると思っている。

貴財団をはじめとする日本からの支援は現地校を活性化するための重要な資金的支えになっている。このことは現地校が最も認識しているところで、常に感謝の言葉をもたらしていることをお伝えしたい。

2011年度国際協力活動は以下の通りです。



◎海外研修

契約先	コース名	参加国数 / 人数	期 間
APT(APT計画J1)	ブロードバンド通信のためのサイバーセキュリティ政策・技術	15カ国 / 15名	2011年11月9日～11月18日
	モバイル通信技術とサービス	4カ国 / 8名	2011年11月29日～12月9日
	ルーラル地域向けの小規模通信	9カ国 / 9名	2012年1月18日～1月27日
国際協力活動基金からの拠出による自主研修	モバイル通信技術とサービス	10カ国 / 10名	2012年2月21日～3月2日

◎デジタルデバインド解消パイロットプロジェクト

実施国	概 要	
マーシャル諸島	件 名	継続可能でエコ・フレンドリーなICTテレセンターを通じた生計の機会創出と文化保護
	実施期間	2011年5月～2012年3月
	実施場所	マジュロ環礁、メジット島
	メンバー	マーシャル諸島：運輸・通信省、教育省、保健省、国家通信局、他 日 本：KDDI 財団、KDDI 株式会社 他
	実施概要	これまで、メジット島と首都マジュロ間の通信は、短波無線による音声通話のみであり、高度化が望まれていた。2010年度に実施した現地関係者からの要望調査の結果を踏まえ、今年度は最適な通信システムの設計、構築を行った。 具体的には衛星通信 (DAMA) とフェムト基地局を使った GSM 携帯通信の組み合わせによりメジット島からの音声通信、インターネットアクセス等のデータ通信を利用とした。また、地元住民に対して各種アプリケーション利用法の基礎を教えた。
ベトナム	件 名	視覚障害者の生活向上のためのICT活用の調査研究
	実施期間	2011年3月～2012年3月
	実施場所	ハノイ
	メンバー	ベトナム：情報通信省国際部、NIICS (国家情報通信戦略研究)、視覚障害学校と視覚障害協会 日 本：KDDI 財団、早稲田大学、東京大学、総務省、他
	実施概要	視覚障害者の生活向上のためのICT活用を促進するため、ベトナムと日本の現状を調査し、ベトナムにおける視覚障害者のための実証実験を含むICT技術やこれを推進させていくための政策・施策などを共同研究した。

◎チャリティコンサート

- 目 的 / 「チャリティコンサートクラシック2012」を開催。収益金や募金を NGO Japan Relief for Cambodia に寄付し、カンボジアに学校を建設して子供たちの教育支援を行うほか、一部を東日本大震災の復興支援のための義援金として日本赤十字社に寄付。
- 日 時 / 2012年2月15日(水) 19:00開演
- 会 場 / 紀尾井ホール (千代田区紀尾井町)
- 出演者 / 川井郁子 (ヴァイオリン)、古川展生 (チェロ)、梅村祐子 (ピアノ) 他
- 曲 目 / タイスの瞑想曲、愛の喜び、リベルタンゴ、他



◎カンボジアにおける学校建設

- 学校名／The Yeam Khao KDDI School (ヤム カオ KDDI スクール)
- 所在地／カンボジア タケオ州 ヤム カオ村
- 教室数／3教室
- 生徒数／約200名
- 開校式／2012年1月12日



◎ ICT普及業務 (MCPC モバイルシステム技術検定試験対策講習会)

種別	コース名	受講人数
一般	MCPC モバイルシステム技術検定 1級試験対策講習会 (春秋 計6回)	120名
	MCPC モバイルシステム技術検定 2級試験対策講習会 (春秋 計4回)	83名
個別	MCPC モバイルシステム技術検定 2級試験対策講習会 (春秋 計7回)	49名
合計		252名



コスラエの薫り

公益財団法人KDDI財団 国際協力部 専任課長

大沢潤一 Junichi Osawa



グアムからマーシャル諸島の首都マジュロまでは、途中の4つの島を30分程度の滞在でフライングホップしていきます。その3番目がコスラエ島です。

飛行機のハッチに立つとコスラエの風が薫りました。潮の香りです。グアム、チューク、ポンペイではなかった香りです。トランジットのための待合所への短い道でも、芝を刈ったばかりなのでしょう、芝の香りです。待合所に入ると人だかりが。何かと思うと、島の女性が何か売っています。バナナ、袋に入った緑の物(何かの果物でしょうか)。また、待合所の中を歩いていると、どこからか、柑橘系のさわやかな香りです。年配の女性がバナナ

をほおばっている、その足下に緑の物の入った袋です。その隣で、旅行者風の男性が先ほどの緑の物の皮をむいています。むかれた皮を見た感じは、日本の冬の定番、みかんのようです。柑橘系の香りは、あのみかんのような物からだったのでしょうか。年配の女性は、近くの人にみかんのような物を勧めています。私にも手招きしていましたが、手を振っていないそ



ぶりをしてしまいました。本当は食べてみたかったのですが。

あっという間に飛行機の搭乗案内のアナウンスです。今度は待合室から飛行機までの道を逆にたどります。そこそこに日本でも見たことのある赤と紫の花が見られます。そして搭乗前には刈り込んだ芝の香りです。ほんのつかの間でしたが、たくさんの香りとの

出会いがありました。

旅の帰り、今度はマジュロからグアムへのフライングホップでコスラエに立ち寄りました。緑のみかんがあるかなと思いつきながら待合所へ入ると、売っていました。口に含むと、さわやかなジュースがたくさん出てきました。食べ始めると、あれよ、あれよという間にビニール袋一杯あったみかんが残りわずかになってしまいました。旅の薫りを思い起こさせる、緑のみかん*の味でした。

*「タンジェリン」と呼ばれる。「ウンシュウミカン」等とも同種。昔、日本から伝わったとも言われています。

コンサルティング活動の紹介



公益財団法人KDDI 財団 技術部 部長

小林喜代隆

Kiyotaka Kobayashi

KDDI 財団のコンサルティング業務は、1974年8月に設立された財団法人 KDD エンジニアリング・アンド・コンサルティング (KEC) の業務の一つとして開始されました。当時、日本経済は、驚異的な高度成長を遂げ、政治、経済、文化等の分野での世界的な交流がますます活発化し、高度情報化時代を迎えていました。こうした社会情勢の中で、国際間の通信の役割も、ますます重要となってきました。そして、開発途上国から日本に対して、国際通信施設の建設に係わる基礎調査、システム設計、工事管理、施設の運用・保守への協力を要請されることが増加してきました。国際通信では、相手国の通信技術が、日本と同じレベルにないと、良好な通信サービスの提供が出来ません。そこで、当時、日本で唯一、国際通信サービスを提供していた国際電信電話株式会社 (KDD) が中心となり、コンサルティング業務、および、国際通信に係わる調査・研究等を中立的に実施する公益法人として、KEC が設立されました。KDDI 財団は、2009年10月に、KEC と (財) 国際コミュニケーション基金 (ICF) が合併して設立された財団であり、KEC のコンサルティング業務を引き継ぎ、実施しております。

当財団では、現在、政府開発援助 (ODA) 案件、国際機関による援助案件とともに、民間企業等の要求に合致する電気通信の総合的コンサルティング業務を提供しています。コンサルティング業務の概要は、次のとおりです。

(1) 通信ネットワークおよび事業化に関する各種調査および計画立案

様々な局面にある通信の状況に関し、各種調査を実施します。具体的には、様々なニーズを満たす通信ネットワークに関し、技術的、および、財務的な調査を実施し、長期基本計画の立案 (マスタープラン調査)、または、フィージビリティ調査を実施します。さらに新規に通信事業を開始するにあたり、事業化計画調査、および、事業化計画立案の支援を行います。

マスタープラン調査においては、通信政策の策定、網計画の策定、基本計画・中長期計画の作成、財務計画の策定などを実施します。

フィージビリティ調査においては、トラフィック分析・予測、通信網・設備の概略設計、財務・経済分析などを実施します。

事業化計画調査においては、通信状況分析、需要予

測調査などを実施します。

事業化計画の立案においては、事業用通信設備・構成の策定、事業運営計画の立案、財務・経済分析などを実施します。

(2) 各種通信システムの計画立案・設計の支援

最適な設備を組み合わせた各種通信システムの計画立案、および、設計の支援を行います。対象とする通信システムとしては、衛星通信システム、光海底ケーブルシステム、携帯電話システム、陸上光ファイバー網、海事通信システム等があります。

(3) 各種通信システムの調達、建設、運用、および、保守の支援

各種通信システムの調達から建設、運用・保守、機能改善等の業務を支援します。具体的には、製造業者選定のための入札文書、および、技術仕様書の作成、応札提案書の評価、製造業者契約手続き支援、工事監督支援、運用・保守支援、現地技術者訓練等を実施します。

当財団のコンサルティング業務の実績としては、海外コンサルティング分野では、56カ国において、170件のコンサルティングを実施しました。国内コンサルティングの分野では、47件のコンサルティングを実施しました。

海外コンサルティングにおいては、最近では、日本の円借款を利用した、ベトナムの海事通信を整備するプロジェクトにおいて、コンサルティング業務を実施しました (1998年3月から2005年11月まで)。本プロ



「ベトナム海事通信整備拡充プロジェクト」により建設されたインマルサット陸上地球局のアンテナ。右から3人目が筆者。同4人目が染谷さん (現 KDDI (株) NW技術本部モバイルアクセス技術部)



「ベトナム光海底ケーブルプロジェクト」の陸上連絡ルート打ち合わせ後。右から3人目が KDDI 財団の桑原さん（現 KDDI（株）総務・人事部総務部）



「カンボジアメコン地域通信基幹ネットワークプロジェクト」の現地調査打ち合わせ。右から1人目が KDDI 財団の藤井さん



「カンボジアメコン地域通信基幹ネットワークプロジェクト」において建設予定の光ケーブル

プロジェクトでは、ベトナム全国に、29カ所の海岸無線局を、ハイフォン市にインマルサット陸上地球局および衛星による遭難安全通信用地球局を建設しました。このプロジェクトは、SOLAS 条約 (International Convention for Safety of Life at Sea: 海上における人命の安全のための国際条約) に基づく GMDSS (Global Maritime Distress and Safety System: 全世界的な海上遭難安全システム) を構成する通信ネットワークを構築するものです。本通信ネットワークの完成により、ベトナム周辺海域における海上の安全性が格段に改善されました。当財団は、通信システムの詳細設計、製造業者選定のための入札支援、建設工事管理支援、運用支援、現地技術者の訓練等を実施しました。

現在は、ベトナム、および、カンボジアにおいて、通信インフラ建設プロジェクトのコンサルティング業務を実施しています。

ベトナムでのプロジェクトは、南北間の主要都市を結ぶ総延長約 2,000 km に及ぶ、光海底ケーブルの敷設、および、11カ所の陸揚げ局を建設するものです。当財団は、国内コンサルティング法人とコンソーシアムを組み、ベトナム郵電公社 (VNPT) と、コンサルティング業務契約を締結し、2005年1月からコンサルティング業務を実施しています。この光海底ケーブル網が完成すれば、高信頼・高安定な通信ネットワークが整備されますので、ベトナムの急激な経済発展や IT 化に伴い、ますます増大する通信需要に対応できることが期待されます。

カンボジアでのプロジェクトは、首都プノンペンを中心とするカンポンチャンからシハヌークビルまでの約 400 km の光ケーブルによる基幹伝送路網および光ケーブル沿いの主要都市におけるアクセス網を建設するものです。当財団は、国内コンサルティング法人とコンソーシアムを組み、カンボジアの通信事業者であるテレコムカンボジアと、本プロジェクトに係わるコンサルティング業務契約を締結し、2007年12月から、コンサルティング業務を実施しています。この光ケーブル基幹伝送路網が完成すれば、高信頼・高安定な通信ネットワークが整備されますので、カンボジアの経済発展、および、各種産業の IT 化に大きく寄与することが期待されます。

国内コンサルティングにおいては、最近では、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) の超高速インターネット衛星 (WINDS: Wideband InterNetworking engineering test and Demonstration Satellite) を使用する実験ユーザー局

(VSAT) の海外における設置・保守、マルチキャスト実験の支援、および、Eラーニング実験の支援を、KDDI 株式会社、および、国内企業と協力して実施しました (2008年4月から2010年3月まで)。現在は、国内企業、および、外国企業に対して、衛星通信に係わる支援業務を実施しています。

当財団では、今後、コンサルティング活動については、今まで同様、日本の円借款による海外コンサルティングを、公益事業である国際協力という枠組みの中で、また、国内コンサルティングは、収益事業として、取りこんで行くこととしています。今後とも、国内外の通信の発展に寄与すべく、コンサルティング活動を実施して行きたいと考えています。

海外コンサルティング活動実績 (国別) 2012年1月現在

◎ アジア	件数	コモロ	2
モンゴル	15	パプアニューギニア	1
マレーシア	7	◎ 中南米	件数
ラオス	8	メキシコ	1
ベトナム	11	ペルー	1
中国	3	パラグアイ	8
バングラディシュ	5	ブラジル	2
シンガポール	5	◎ 中東&欧州	件数
インドネシア	5	マルタ	1
スリランカ	4	キルギス	2
韓国	2	カザフスタン	2
台湾	1	シリア	1
香港	3	イラン	2
インド	2	ウズベキスタン	1
ミャンマー	3	ロシア	6
フィリピン	6	ギリシャ	2
カンボジア	3	クウェート	1
パキスタン	1	カタール	1
タイ	5	◎ アフリカ	件数
◎ 南太平洋	件数	チェニア	1
フィジー	5	エチオピア	2
トンガ	3	ギニア	1
サモア	3	ザンビア	2
キリバス	3	ジンバブエ	1
バヌアツ	3	南アフリカ	1
マーシャル	2	ウガンダ	3
ソロモン	2	ガーナ	2
ツバル	2		
クック	2		
ナウル	2		
ニウエ	2		
トケラウ	2		
モルディブ	1		
パラオ	2		
		合計56カ国	170

インシヤアラ

～ 神の思し召しのままに～

KDDI 株式会社
グローバル事業本部
グローバル総括部
経営統合推進G
グループリーダ

岡 信行

Nobuyuki Oka



アラブとの出会い

「バーレーンへ行ってほしい。」

打ち合わせから戻った私を待ち構えていたかのよう
に上司が私に伝えた。

「バーレーンってどこにあるんですか?」「良く知
らない…。」

今から20年近く前の話だ。広告宣伝担当としてス
タジオで深夜までCMの編集作業に追われていた私
にとって海外赴任の辞令は青天の霹靂であった。内示
を受けたその日に本屋に走り旅行ガイドブックコー
ナーを探したが中東関連の本は当時ほとんど出てい
なかった(注:「地球の歩き方」のアラビア半島編の
発刊は2年後)。英語が全く話せないという事実を
すっかり忘れていた私は、行けば何か面白いことがあ
るだろう、ぐらゐの気持ちで未知の国バーレーンへの
赴任を決意、2か月後在バーレーン日本大使館三等書
記官として赴任した(注:人事交流の一環として外
務省、旧郵政省等への出向制度があった)。



ドバイ支店のあるドバイ・インターネットシティの担当者と

大使館員として

大使館では領事及び広報文化を担当した。

領事は在留邦人(注:海外に滞在する日本人のこと
をこう呼ぶ)の現地でのサポートで、旅券や査証の発
給の他、頻発していたイスラム原理主義者による爆弾
テロ、デモの情報収集、対応に追われた。

広報文化は日本から伝統芸能の専門家を呼んで現
地の人達に日本文化を紹介する遣り甲斐のある仕事
だった。沖縄の民族舞踊の専門家に来てもらい大ホー
ルで現地のアラブ人といっしょに踊ったり、和風の専門
家に来てもらい砂漠のど真ん中で大凧揚げを披露した。
現地の人々と触れ合いながら喜んでもらえるのが何よ
り嬉しかった。また、赴任中に皇太子ご夫妻や村山首
相(当時)の中東歴訪もあり随行のマスコミ含め現地
での受け入れを担当、忙しいながらもとても良い経験
となった。

失敗談もある。赴任直後に米国大使館のパーティー
に招待された私は、アメリカ大使を紹介された際「大使
= Ambassador」という単語の意味が解らず民間人だ
と思い込み「どういう職業の方ですか?」と聞いてしま
った。米国大使は憤慨、今でもトラウマとして残っ
ているが外交問題に発展しなかったのが幸이었다。

そしてドバイへ

さて、それから15年後、KDDIシンガポールに赴任
していた私は上司から「中東に拠点を作ろうと思う
けどどう思う?」と聞かれた。その時は特に深く気に
留めていなかったが半年後にはKDDIドバイ支店開設

のため UAE のドバイ国際空港に降り立つことになった。大学を留年して海外放浪をしていた頃、アフリカへ行く飛行機が給油のためドバイに立ち寄ったのがドバイという地名を知った最初だった。当時高い建物は無く上空から見るドバイの街は砂に埋もれかかっているように見えた。「こんなところにも人が住んでいるんだ。まあ二度と来ることは無いよな。」と思いながら眺めていたことを思い出しちょっと涙が出た。

現在は、片側 6 車線の高速道路を取り囲むように高層ビルが建ち並び、世界一の高さを誇るタワー、世界唯一の七つ星ホテル、世界最大のショッピングモールが林立する。金融機関はじめ欧米企業の中東統括拠点もドバイに集中、ドバイを本拠とするエミレーツ航空は世界 100 都市以上に就航しまさに名実共に中東のハブとなっている。

🌀 ドバイの生活 🌀

ドバイは治安が良く通信、道路、空港などのインフラも整っており生活環境は悪くない。しかし、アラブの国で実際にビジネスをしていくには相当の忍耐力とエネルギーが求められ、そのストレスは真夏に 50 度を超える過酷な気象条件と相まってボディーブローのように少しずつ体に効いてくる。

日本人にとって一番つらいのは時間感覚の違いだろう。明日朝 10 時から作業開始と伝えれば、日本人的感觉としては 10 分前には集合し準備、10 時には実際に作業を開始するというのが普通である。しかし、彼らにとっては「午前中に集合」くらいの感覚でしかない。彼らには悪気は無い、逆に時間ぴったりに来る日本人が「クレイジー」なだけなのだ。また、何か頼み事をした際に彼らは「ノープロブレム」という言葉を頻繁に使うが、これを日本人的感觉で「問題無い=イエス」と解釈して安心してはいけない。実際には「プロブレム」になってしまうことがほとんどだ。彼らにとってはちょっとした相槌程度の意味しかなくアラビア語のインシャーラ（神の思し召しのままに）に通じるところがある。

ドバイの日本人駐在員の一番の悩みはビジネス以前のこうした現地従業員、取引先などのコミュニケーションギャップ、そこからくるストレスではないだろうか。

一方、酷暑のドバイを涼しく過ごす方法もある。ドバイスキー、気温 0 度、天井からは粉雪が舞い、傍らのカフェには暖炉に火が入っている。以前日本にあったザウスのような人工スキー場だが、コースが上中初級



(上) 昔の面影を残すドバイ旧市街・(下) 高層ビルの林立するドバイ新市街

に分かれており結構楽しめる。初級コースでは子供達がソリを楽しめるような設備もあり、休日には雪を初めて見るというアラブ人家族で賑わう。また、意外だがドバイには温泉も湧いている。オマーン国境に近い山岳地帯の村にある。一見屋外プールのようなのだが地下から自噴している本格的な温泉で露天風呂感覚で楽しめる。温泉につかりながら恍惚の表情を浮かべ、日がな一日四方山話に花を咲かせているアラブ人の老人を見ているとなぜか心が落ち着いてくる。

🌀 帰国 🌀

昨年 11 月に 5 年ぶりに日本へ帰国した。

四季のある日本の気候のすばらしさをかみしめている毎日である。一方、砂漠の民として受け継がれているアラブ人の人生観やもてなしの心（遠来の客に対するホスピタリティー）から学んだことも多いなあともあらためて思い返している。

一般的な日本人的感觉では中東はまだまだ良く分からない遠い国というイメージが強いと思う。しかし、一生を日本の中で過ごし、日本人とだけ付き合えば良いという時代は終わりに来ている。未知の国へ一歩踏み出す人が増えていくことを願っている。

ハラス(終わり)

Makgadikgadi Pan

～見渡す限り何もない世界～

Lekhubu Island

～どこかの惑星のような景色が広がる～



KDDI 株式会社
渉外・広報本部 渉外部
課長補佐 (JICA 派遣)

平野 祐介
Yusuke Hirano

Introduction

ボツワナ共和国はアフリカ南部に位置し、2010年にはサッカーワールドカップで盛り上がった南アフリカ共和国の北隣にある。このボツワナ共和国の北東部に世界最大級 (広さは約12,000km²) の塩湖、マカディカディ・パンがある。マカディカディ・パンは東側のソワ・パンと西側のンツェツェ・パンという大きな2つの塩湖 (パン) と、それらを中心にしてその周囲に点在する幾つかの小さな塩湖とを合わせた全体の総称である。そんなマカディカディ・パンと、その中に浮かぶ島の一つで絶景を見ることができるレクブ・アイランドについて紹介する。



🌀 Makgadikgadi Pan マカディカディ・パン 🌀

マカディカディ・パンは、雨季にはうっすらと水がたまってまさに塩湖となり、フラミンゴをはじめとする多くの渡り鳥たちが飛来する。そして乾季には、塩湖の水は完全に干上がり、塩を含んだ白い大地が姿を現す。約12,000km²もの広大なその白い大地は多量に塩を含むため植物が育たず動物もおらず、何も存在しない無の世界が延々と広がる。今回は、無の世界が広がる乾季の魅力を紹介したい。

何も無い塩湖で一泊する、そんなツアー*に近くのロッジで参加することができる。その場合、塩湖へはロッジのサファリカーに乗って入っていくが、他にもバギーを自ら運転し、塩湖を走ることができるアトラ

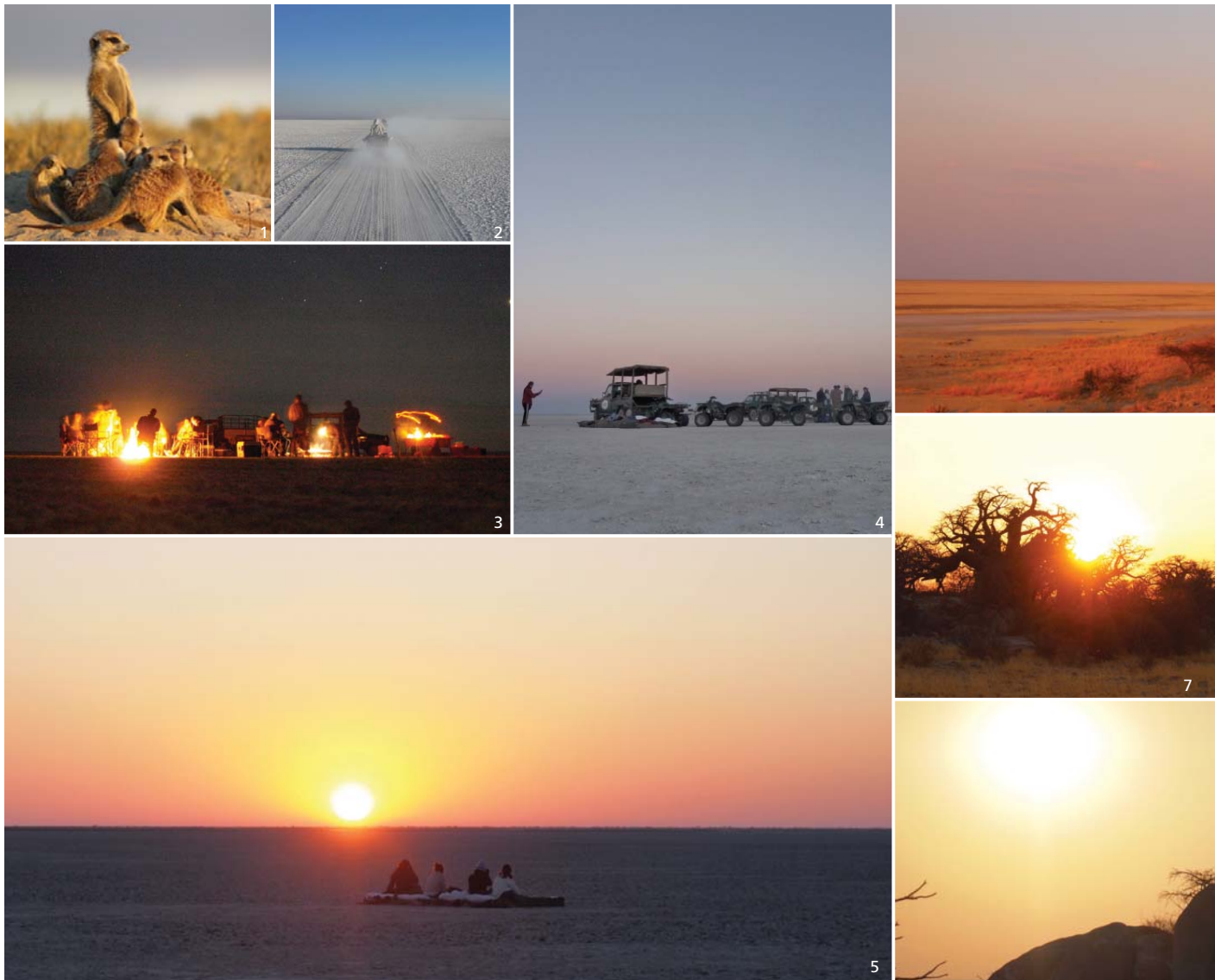
クションもある。(ただし塩湖の環境保護のため、決められた通り道しか走ることは許されていない。)

更に、ロッジから塩湖へ行く途中には愛らしいミーアキャットを間近に見られるポイントに寄ることもでき、塩湖への長い道のりも飽きることはない。宿泊するのは360°何も無い真っ白な世界が広がる大地の上である。

宿泊地点に着くと、スタッフが先回りして既に火を熾し食事の準備などを始めてくれている。離れたところに穴を掘り、その周りを囲って簡易的なトイレも設置済み。今夜は火の周りでバーベキューなどの食事を取り、広い大地の思い思いの場所に寝袋を敷いて眠る。

* Planet Baobab

http://www.unchartedafrica.com/page.php?p_id=59



しかし、何も無い大地の夜は非常に冷える。そこでこのツアーで用意されている寝袋は一般的なものとは一味違う。袋はテント生地できていて風を全く通さない。そしてその中には普通のものとは何ら変わらないふかふかの布団が敷かれている。もはや寝袋というより布団袋といった感じで、満天の星空を見上げながら寝る夜は快適そのものである。食事を待っている間に日が暮れていく。塩湖に訪れる夕暮れ。まるで大地が燃えているように見える。火を囲み、暖をとりながら夕食。空を見上げるとそこには満天の星空。天の川もはっきりと見ることができる。時間によって様々な星座を見ることができるが、星が多すぎてどれがどれだか分からなくなる程。オリオン座や南十字星といった主だったものを見つけるのが精一杯だった。

翌朝はまだ日が昇る前からツアースタッフが起きてお湯を沸かし、朝の準備を進めてくれる。我々は暖かいお湯で顔を洗い、コーヒーや紅茶で一息入れながら朝

日を眺めることができる。ツアーではこのあとロッジに戻って朝食となる。

🌀 Lekhubu Island レクブ・アイランド 🌀

広大なマカディカディ・パン（塩湖）の中にはところどころ小さな島がある。マカディカディ・パンを形成する大きな2つの塩湖のうち東側に位置するソワ・パンの南端にはレクブ・アイランドという名前の塩湖に浮かぶ無人島がある。この島は周囲2kmほどの小さな島で表面はゴツゴツした岩で覆われ、その上には強風によって奇妙な形に成長したバオバブの木がたくさん生えている。その景観は塩湖と相まって不思議な景色を作り出し、特に朝日に照らされた塩湖とバオバブはあまりにも美しく感動的である。

レクブ・アイランドへのツアーを催行しているロッ



6



8



9

1-5: Makgadikgadi Pan / 6-9: Lekhubu Island

ジ*もあるが、今回はミニバスをチャーターして訪れた。レクブ・アイランドは時間によって色合いを変え、その表情を一変させる。夕方にはまず全てのものがオレンジ色に染まり、次第に赤から青へと変化していく。夜はバオバブの木のそばにあるキャンプサイトでキャンプをする。するとゆらゆらと燃える炎によってバオバブの木がぼんやりと照らし出される。

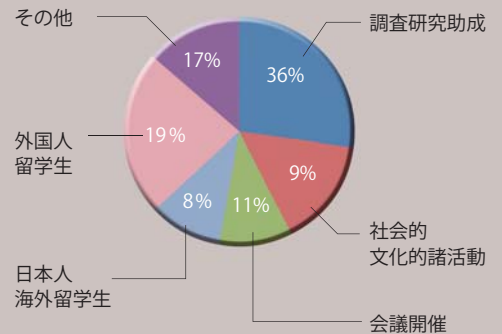
物音一つしない静かな夜、満天の星空を眺めながら過ごしていると、ふと、大地の優しさに包まれている感覚を覚えた。それはまさにボツワナの優しさがそのまま表れているようだった。

そして夜明け。おそらくレクブ・アイランドで一番美しい景色が見られる時間帯がこれから始まる。日中の暑さが嘘のようにすがすがしい爽やかな空気に満ち溢れる。そして柔らかな朝日が全てを包み込み、繊細な陰影や色合いを見せてくれる。

* Planet Baobab
http://www.unchartedafrica.com/page.php?p_id=59

◎ 2011 年度 助成・援助の構成比

助成総額 75,416 千円



カンボジアへ建設した学校の開校式で笑顔の子供たち

編集後記

昨年新設された「日本人の海外留学助成」には予想よりも多くの応募がありました。審査委員会、理事会を経て対象者が決定し、今年、いよいよ助成援助を開始します。最近は「そこそこ」「まあまあ」な生き方が蔓延しているようで、それもまたよし、ではありますが、日本を飛び出してとことん勉強しようという人がまだまだいることはとても喜ばしく、積極的に支援していければと思います。

そして、2012年4月、KDDI財団は公益財団法人となり、私たちも新たなスタートに立ちます。新鮮な気持ちでがんばりますので、これからもよろしくお願いします。(理)

KDDI Foundation Vol.3

発行 / 2012年4月1日

編集・発行責任者 / 澤田 茂典

公益財団法人 KDDI 財団

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-28-8

文京グリーンコートセンターオフィス 7F

Tel: 03 (5978) 1051 Fax: 03 (5978) 1050

Email: office@kddi-foundation.or.jp

<http://www.kddi-foundation.or.jp>

設立: 2009年10月1日 出捐: KDDI株式会社